

平成二十二年 度 中学校第一回入学考査問題 (国語)

(その一)

注意 解答はすべて解答用紙に記入すること。また、字数指定のある問いは、句読点なども字数にふくめること。

一、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

桜井さんは真剣な眼差しでぼくを見つめて言った。

「あのな、おれ、やめようと思う」

予想が的中した。そう思った。やっぱり、桜井さんは母さんとの再婚をやめるつもりなんだ。これは、ぼくの責任だ。ぼくがもつと上手に桜井さんと付き合うことができていれば、母さんは桜井さんと再婚してしあわせになれたのに。

ぼくが固く目を閉じて自分を責めていると、桜井さんの慌てた声が聞こえた、

「あ、違うぞそういう意味じゃないぞ。温子さんの結婚をやめるって話じゃなくてな」

「は？」

1 気の抜けた声が口からもれた。ぼくが顔を上げると桜井さんは「いや、誤解させてすまん、そうじゃなくてな」としきりに謝る素振りをした。

「そうじゃなくて、おれな、父親のまねごとは——^{先輩のまねはもうおしまいにしようと思うんだ}」

「父さんのまねって、それ、どういう……」

意味がわからずにぼくが尋ねると、桜井さんは頭をかいて、

「いや、おれはな、ワタルくんの父親になるのなら、^{渚先輩みたいにならなきゃならん}と思ったんだ。それで、なんとか話し方とか性格とかまねてみようとしたんだが、やっぱり無理なんだな、これが。おれじゃあどうがんばっても、^{渚先輩の代わりにはなれん}」

あの人っぽく話してみたところで、おれの凶体と声じゃ気色悪いだけだ、と桜井さんのため息をついてみせた。

どうやらぼくが気持ち悪いと感じていたあの猫なで声は、父さんのまねをしていたらしかった。全然気づかなかった。ぼくはてっきり、桜井さんは A しているだけだと思っていた。

「だけど、それももうやめる。あの置物が壊れちゃったのも、なんかのお告げかもしれないと思ってな。前に言ったら、ガネーシャはしあわせを呼ぶ神様だって。それが壊れちゃったことは、いつまでもそんなふうに変にまねなんかしてると、

B、ってことなのかもな、って思ってた」

2 桜井さんの声は、なにかから解放されたみたいにさっぱりしていた。

「なあ、ワタルくん——いや、その……呼び捨てでもいいか？」

ぼくはうなずいた。桜井さんは「ありがとな」と言ってくれた、

「おれは、温子さんのことが好きだ。けどそれは、ワタルのことはどうでもいいって話じゃないんだ。おまえさんこの前、温子さんがしあわせなら自分はどうでもいいとか言ってたが、それじゃあおれが嫌なんだ。おれは温子さんと夫婦になりたいだけじゃなくて、ワタルともちゃんと家族になりたいんだから」

ぼくは黙っていた。父さんの演技をやめた桜井さんの言葉は、C だけどまっすぐで D だった。いつも相手の顔色をうかがって言葉を選び、必要とあらば平気で嘘をつくぼくの言葉とは大違いだった。

「もちろん、今すぐワタルにおれのこと父さんって呼べって言ったって嫌だろうし、おれも今すぐ温子さんをお母さんとか呼べと言われても困るわけだ。そんな急に変わろうとしたって無理な話だ。ただ、ずっといっしょにいるうちに、少しずつ変わっていくものもあると思う。そうやって最後には、おれと温子さんとワタルの三人で、楽しく暮らしていけたらいいって、そう思ってるんだ、おれは」

だから、もう少し時間をくれないか。と、桜井さんは言った。お互いのことをもつとちゃんと、わかり合うだけの時間を。桜井さんは、そこまで言い終えて口を閉じた。

ぼくは夢の中の父さんの言葉を思い出していた。変わるものと変わらないもの。たぶんぼくは、³ 桜井さんという変化を受け入れるつもりで、桜井さんを完全に拒絶していたのだと思う。無理に仲の良い演技をして、自分の気持ちを隠して、

4 「ずっとサナギのままでしたら、こんなきれいな桜を、見逃してしまうんじゃないか」

父さんのそよ風のようなささやき声が聞こえたような気がした。

桜井さんが不安そうな瞳でぼくを見つめていた。ぼくははっきりと、桜井さんに向かってうなずいた。

「あの、桜井さん、これから——よろしくお願いします」

ぼくの言葉に、桜井さんがほっとした表情を見せた。

「ああ、こちらこそ、よろしく」

そのとき、表で乱暴な車の運転の音が聞こえた。少しして居間に入ってきた母さんは、ぼくたち二人を見てげんな目つきになった。

「なによ二人とも、ずいぶん仲良さそうになに話してたわけ？ もしかしてわたしの悪口？」

ぼくと桜井さんは顔を見合わせた。桜井さんが言った。

「男と男の会話さ」

「父と子の語らいたよ」

ぼくが言った。そのとたん、母さんと桜井さんが驚いた顔でぼくを見つめた。言ってしまったから、ぼくもひどく恥ずかしくなった。両方の耳が熱くなるのがわかった。勢いで言ってしまったけど、やっぱり、今の科白はかなり無理があった。だけど――

いつか、そんな言葉が自然に言えるような関係に、なっていくのだろうか。そんなふうにはくも、変わっていくのだろうか。

無理に父さんのまねをしていない、自然なままの桜井さんが相手なら、そんな関係も悪くはない。ほんの一瞬だけ、そんなことをちらりと考えた。

翌朝、普段よりはるかに早く学校の支度を終えて玄関を出ると、見事に晴れた青空と強烈な太陽の光が目飛びこんできた。(中略)

桜井さんに手を振って学校に向かおうとして、そこでふと家の花壇に植えられた一本の植物の茎に、見覚えのある深緑色の三日月を発見した。

「あ、サナギ……」

「ん？ ああ本当だ。そんなのよく見つけたなあ」

桜井さんが感心した声で言った。ぼくは半分夢見心地で、見つけたサナギに近づいていく。花壇の前にかがんで、なんとなくサナギに触れようと手を伸ばしかけたら、後ろから伸びてきた桜井さんの手に止められた。

ぼくははっとして後ろを振り返った。一瞬だけ、記憶の中の父さんと桜井さんの姿が重なって見えた。

「触っちゃ駄目だ。サナギはもういからな」

桜井さんはやさしく言った。えっ、とぼくはきき返す。

「もうい？ だつてサナギは硬いでしょう」

「ああ、たしかにサナギの殻は硬いけどな。知ってるか、サナギの中では幼虫の体が一度どろどろに溶けて、成虫になるためにめっちゃくちゃな変化してるんだ。だからあんまり触ったりして刺激を与えるとよくないんだよ」

桜井さんの言葉に、ぼくは再び茎にへばりついた三日月形を見つめた。

――そうか。ただ殻の中で固まっているわけじゃ、ないんだな。

「それより、時間は平気か。なんなら乗せていくけど」

しまった。そうだった。(中略) ぼくは慌てて走り出そうとした。そのとき、桜井さんがぼくの背中に声をかけた、

「ワタル！」

ぼくはそちらを振り向く。桜井さんは笑顔で、

「いってらっしゃい」

「――いってきます」

その言葉は、最初のころより少しだけ自然に響いたような気がした。

(如月かずさ『サナギの見る夢』)

問一 —— 線部1「気の抜けた声が口からもれた」とあるが、なぜか。その理由として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 桜井さんの真剣なまなざしに、「ぼく」も目を閉じて緊張していたが、桜井さんが大人であるにもかかわらず動揺し、あわてた声を発したのにあきれてしまったから。

イ 桜井さんの真剣なまなざしに、「ぼく」も目を閉じて緊張していたが、あまりの重苦しさにたえきれず、それ以上緊張を持続することができなくなってしまったから。

ウ 桜井さんの「やめようと思う」という言葉が、母との再婚をやめるという意味でないとしたら、何を意味しているのか真意を計りかねてぼうぜんとしてしまったから。

エ 桜井さんの「やめようと思う」という言葉が、母との再婚をやめるという意味だと思いこみ、自分を責める気持ちでいたのに、そうではないと分かり拍子抜けしたから。

問二 本文中の [A] には、桜井さんのふるまいをワタルがどうとらえていたのかが分かる言葉が入る。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア ぼくに見下されないように、たのもしくて立派な男に見せよう

イ ぼくに気に入られようとして、やさしくて気のいい大人の演技を

ウ ぼくに好かれようとして、おだやかだった生前の父親のまねを

エ ぼくに心を開いてもらうために、ありのままの自分を見せよう

問三 本文中の [B] には、置物が壊れたことの意味について桜井さんがどのように考えたかを表す言葉が入る。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア みんなしあわせになれないぞ

イ 渚先輩にしかられちゃうぞ

ウ 温子さんの愛情も壊れちゃうぞ

エ おれのしあわせも壊れちゃうぞ

問四 —— 線部2「桜井さんの声は、なにかから解き放たれたみたいにさっぱりしていた」とあるが、ここでの「なにか」の内容とはどのようなものと考えられるか。本文中の言葉を用いて、三五字以上、四五字以内で答えなさい。

問五 本文中の [C]・[D] に入る言葉として適当なものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

[C]

ア 乱暴 イ 慎重

ウ 淡泊

エ 複雑

[D]

ア 平板 イ 誠実

ウ 素朴

エ 明快

問六 —— 線部4「ずっとサナギのままでしたら、こんなきれいな桜を、見逃してしまうじゃないか」とあるが、このとき父親の言葉を思い出したワタルは、この言葉に比喩的な意味を感じ取っていると考えられる。そのことをふまえて、次の問いに答えなさい。

I 「ずっとサナギのままです」といふことは、どのようなことを比喩的に表しているか。—— 線部6「だってサナギは硬いでしょう」というワタルの発言を参考にして、二〇字以上、三〇字以内で答えなさい。

II 「きれいな桜」を見るとは、どのようなことを比喩的に表しているか。—— 線部3「桜井さんという変化」だと思ふ」というワタル自身の反省を参考にして、本文中の言葉を用いて、四〇字以上、五〇字以内で答えなさい。

問七 —— 線部7「そうか。ただ殻の中で固まっているわけじゃ、ないんだな」とあるが、ワタルはどういうことに思い至ったのか。その内容について説明した次の文の() に当てはまる言葉を、一〇字で本文中からぬき出して答えなさい。

自分たち三人も() () ことができればいいのだということ。

問八 —— 線部8「その言葉は、最初のころより少しだけ自然に響いたような気がした」とあるが、—— 線部5「やっぱり、今の科白はかなり無理があった」というところから、このように変化したのはなぜか。その理由について説明した次の文の() に当てはまる言葉を、二〇字以上、三〇字以内で答えなさい。

桜井さんがサナギについて新たな気づきを与えてくれたことがきっかけで、ワタルは() () から。

二、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「自分の子供にはどんなふうで育ってほしいですか？」と聞かれて「他人に迷惑をかけない人間に育ってほしい」と語る母親がいます。

ぜいたくは言わない。勉強もそこそこでいい。ただ、「他人に迷惑をかけない人間になってほしい」。いきなり、僕の直感で断定しますが、この言葉を使う母親は、働いた経験がないか年数が少ない人が多いかと思っ

ています。つまり、保育園より幼稚園でこの言葉は多発されているかと思っ

ています。この時の「他人」というのは、「世間」の人たちです。それも、この言葉を使う人は、伝統的な「世間」をイメージしているかと思っ

ています。「世間」であれば、共同体の共通の目的があります。その共同体が何を求めているのか、はっきりとしています。だから、何が迷惑となるか、よく分かるのです。共同体の目的のために、自己の欲望を抑える、ということが大切なんだと分かるのです。

(1) ①、「世間」が崩壊し始めると、同じ目的の「共同体」というものをイメージしにくくなります。

そして、キョウソウ社会になればなるほど、利潤を追求する企業は、自らの欲望に忠実になります。それはまさに「社会」です。

そして、ビジネスとは、お互いの対立する利害を調整しながら、相互に利益を生もうとする活動です。どちらか一方だけが、バランスを力いた利潤を出し続けていては、現代の経済活動は成立しません。

(2) ②、まずは、自分の欲望に忠実になることが、大切なことです。(3) ③、「社会」に生きる者同士、それが、「迷惑」になるかどうかは、お互いの欲望をぶつけてみないと分からないからです。

何が「迷惑」なのか分かっているのは、「世間」です。けれど、グローバル化が進めば、自分の活動や欲望が、相手の「迷惑」になるかどうかは、実際にぶつかってみないと分からないのです。

(4) ④、「迷惑」だと相手が考えていると分かたら調整すればいいだけのことです。

けれど、やる前には分からないのです。相手をキズつけるとか、人のものを盗むとかの話ではないですよ。そんな人間として根本的なことを言っているわけではありません。

働いている母親は、ビジネスにおいては「A」はしばしば「B」すること、それは「C」と言ってしまうまでもありますが、お互いにとっては正当な欲望と活動だということ、それが「B」しているだけだということ、それを「C」などという感情的な言葉でまとめるのではなく、お互いが「D」する方法を見つけることが大切なこと、ということをお分かっていてと思います。

そうすると、タンジュンに、「他人に迷惑をかけない人間になってほしい」などと言えない、ということが分かるのです。もちろん、この願いは、テンケイ的な日本人の考え方です。欧米で、この言葉を言うと、「その子供は、いつも刃物を振り回して凶暴なのか!？」とか「まったく理解できない。子供の可能性をすべて否定したいのか?」と言われるのです。

新しい学力として定着してきた、OECDが提唱するPISA式学力というのは、この「何が迷惑になるか分からない人たちの中でどうやって生きていくか?」という智慧をつけるためのものです。

2003年に世界数十カ国で行われ、日本の子供たちも受けたテストでは、「落書きは、社会の迷惑である」という意見と「落書きを責めるのなら、街の空間に乱立する商業看板を問題にしないのはおかしい」という二つの意見を元に、両者の違いを説明させるところから問題は始まっています。

「異文化の中でどうやって生きていくか」ということが求められているのです。

日本では、「他人の迷惑にならない人間」と言う時、自分のやること「迷惑」になるかどうか、常に考え続けることを求められます。伝統的な「世間」がまだ機能していた時は、なんとかなったでしょう。構成員が何を求めているのか、何を嫌がるのか分かっていたのでから。

けれど、今は違います。

ビジネスの例のように、自分のやりたいことをやる時、他人とぶつからない人はいないのです。子供二人が同時に「ブランコに乗りたい」と言ったとしたら、問題は、それを相手が「迷惑」と感じるか、お互いの正当な主張と感じるかどうかなのです。お互いが正当な主張なら、そこから交渉が始まるのです。

5 子供の頃から「他人に迷惑をかけない人間になれ」と言われ続けた人は、他人との接触を避けるようになります。何が「迷惑」か分からず、常に考え続けなければならず、自分が明確な欲望を持つてしまうと X からです。他人に頼ることを避け、自分のはっきりとした欲望を持つことに戸惑い、人間関係から逃げ続けるのです。

けれど、他人と交わらないで生きていける人なんかいないのです。問題は、繰り返しますが、相手がそれを「迷惑」と感じるかどうかなのです。

6 求められるのは、「相手を思いやる能力」ではなく、「相手とちゃんと交渉できる能力」なのです。他人との距離が、極端な種類しかない若者が増えてきていると僕は思っています。

7 ⑥ 思いっきりタメ口の馴れ馴れしい距離と、「すみません」を連発するよそよそしい距離しかない若者です。それは、理想的な「世間」を相手に求めるか、相手がまったく関係のない「社会」に住んでいると決めつけるか、の二つの世界にしか生きてないことだと思っております。

あなたが今生きる「世間」がうつつとしく、息が詰まるようなら、そして、その重苦しさの割には、あなたを支えてくれないと感じるのなら、僕は、「世間」からゆるやかに「社会」にはみ出していくことを提案します。

(鴻上尚史「空気」と「世間」)

⑥ 共同体と同じ価値観・生活様式などを共有しながら暮らしている人々のまとまり。利潤利益。もうけ。

グローバル化の規模が国家のわく組みを越え、地球全体に拡大すること。

OECD「経済協力開発機構」の略。ヨーロッパ諸国を中心に日・米を含め三十カ国の先進国が加盟する国際機関で、国際経済全般について協議することを目的としている。

PISA式学力国際統一テストのうちの一つである「PISA」によってはかられる、これからの社会を生きていくうえで必要とされる学力のこと。読解力や、数学、科学などのテストによって測定される。「PISA」は、OECD加盟国の多くで十

五才の生徒を対象に行われている。

タメロここでは、同世代の友達と話すような、なれなれしい口ぶりのこと。

問一 線部 a のカタカナを漢字に直しなさい。
問二 本文中の ① () ④ () に当てはまる言葉として適当なものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度用いてはならない。

ア 納得 イ 我慢 ウ 分担 エ 優先 オ けれど

問三 線部 1 「何が『迷惑』なのか分かってるのは、『世間』です」とあるが、筆者がこのように言っている理由はどのようなものだと考えられるか。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世間に属する人々は伝統的に話し合いを重んじており、気がねして自分の意見を引っこめることが「迷惑」になるということが明白であるから。

イ 世間に属する人々の間では本音と建前がたくみに使い分けられており、それらをわきまえない言動は「迷惑」になるということが明白であるから。

ウ 世間に属する人々はだれもがみな同じことを目指そうとしており、それに従わないふるまいが「迷惑」になるということがはっきりわかるから。

エ 世間に属する人々は自らの欲望に忠実な生き方をしており、欲望を満たさずまたげになる行為が「迷惑」になるということがはっきりわかるから。

問四 本文中の「A」「D」について、「A」「C」に当てはまる漢字二字の言葉を、それぞれ「印」より前の本文中からぬき出して答えなさい。ただし、「A」と同じ形式段落にある言葉を使ってはならない。また、「D」に当てはまる言葉として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 納得 イ 我慢 ウ 分担 エ 優先

問五 線部 2 「その子供は、いつも刃物を振り回して凶暴なのか?」とあるが、「刃物を振り回す」のはいけないことだというような、人であればだれもが認めざるをえない当たり前のことを、本文中では何と表現しているか。一〇字以上、一五字以内でぬき出しなさい。

問六 —— 線部 3 「何が迷惑になるか分からない人たち」とは、ここではどういう人たちのことを指しているか。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分とは異なるものの考え方や感じ方をする人たち。
- イ 他人がどう感じているのか察する能力がない人たち。
- ウ 自分の利益を追い求めることしか興味のない人たち。
- エ 自分の思っていることをあまり表情に出さない人たち。

問七 —— 線部 4 「落書きを責めるのなら、街の空間に乱立する商業看板を問題にしないのはおかしい」とあるが、この意見を主張する人は、「落書き」と「商業看板」に、ある共通点を見いだしていると考えられる。では、その共通点とはどのような内容か。解答らんに合う形で答えなさい。

問八 —— 線部 5 「子供の頃から――他人との接触を避けるようになります」とあるが、なぜそうなるのか。その理由が、直後の一文「何が『迷惑』か分からず、――からです」に記されている。正しい理由の説明となるように X に二〇字以上、三〇字以内の言葉を補って、文を完成させなさい。ただし、次の二つの言葉を必ず用いること。

対立 迷惑

問九 —— 線部 6 「求められるのは、『相手を思いやる能力』ではなく、『相手とちゃんと交渉できる能力』なのです」とあるが、ここで言っている、Ⅰ「相手を思いやる能力」、Ⅱ「相手とちゃんと交渉できる能力」とはどのような能力か。次の中から適当なものを一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 相手の気持ちを正確にくみ取り、自ら進んで手をさしのべることができる能力。
- イ 相手が、自分の言動によって嫌な思いをしないかどうか、的確に見きわめる能力。
- ウ 相手と自分との意見の違いを調整し、互いに受け入れられる結論を導き出す能力。
- エ 相手に自分の意見を認めてもらうために、自分の意見を最後まで堂々と主張し続ける能力。
- オ 相手の立場に立って、相手が「世間」と「社会」のどちらかに住んでいるかを判断する能力。
- カ 相手の言葉に耳を傾けてしっかり理解し、相手の考えを自分のものに行うことができる能力。
- 問十 —— 線部 7 「思いっきりタメ口」「すみません」を連発するよそよそしい距離しかない若者」とあるが、筆者の主張によると、そのような若者が「よそよそしい距離」をとるのはなぜか。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 他人と深い関わりを持つ機会を遠ざけることで、周囲とのぶつかり合いを避けようとするため。
- イ 他人に受け入れてもらうには、自分が一歩引き下がることで相手を立てておく必要があるため。
- ウ 他人とぶつかり合ったときに、自分の身をいつでも安全な場所に置いておけるようにするため。
- エ 他人に警戒心を抱かせないようにして、自分のことを相手に受け入れてもらいやすくするため。

～ 以上 ～

